

平成14年度のバランスシート(貸借対照表)

借方	貸方
資産の部 ①有形固定資産 学校、福祉施設、道路、市庁舎など 685億3,920万円 (うち土地 228億5,060万円) ※市民一人当たり134万円	負債の部 負債 地方債 187億6,468万円 退職給与引当金 17億1,126万円
②投資的資産 基金(固定的なもの)、出資金など 57億3,429万円 ※市民一人当たり11万円	負債計 204億7,594万円 ※市民一人当たり40万円
③流動的資産 現金預金、基金、(現金化が容易なもの)、未収金(税など) 43億2,302万円 ※市民一人当たり8万円	正味資産の部 正味資産 国・県支出金および資産形成に充てた一般財源 581億2,057万円 ※市民一人当たり113万円
資産合計 785億9,651万円 ※市民一人当たり153万円	負債・正味資産合計 785億9,651万円 ※市民一人当たり153万円

上のバランスシートは、次のような条件があります。

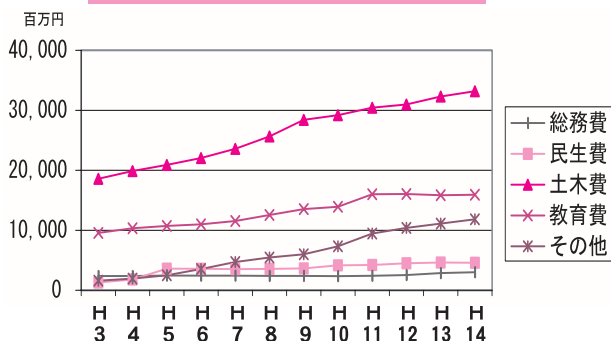
- ①総務省の統一基準により作成しました。
- ②作成した基準日は、平成15年3月31日です。
- ③対象となる会計は、普通会計です。
- ④資産は、昭和44年以降の決算統計からデータを積み上げたもので、昭和43年以前のものはありません。
- ⑤人口は平成15年3月31日現在の51,244人で計算しています。

バランスシートを見てみよう

道路や学校、福祉施設などの資産が、どれだけのお金を使って形成されてきたのか、また、それらの財源がどのようなものなのかを明らかにするために、市では、バランスシートを作成しています。バランスシートは、長期的な財政運営を進めるための指標となります。

バランスシートを身近なことに言い換えると、「有形固定資産」は土地付きマイホーム、「投資的資産」は貯金や投資、「流動的資産」は手持ちの現金など、「負債」はマイホームを建てた借入金といった具合になります。

有形固定資産・行政目的別比較



行政目的別の有形固定資産を経年比較することで、社会資本をどのように整備してきたかが分かります。

左記の表から、土木費の割合が高くなっており、道路などの整備を重点的に行ってきたことがうかがえます。

また、教育費は伊深小(H8)・蜂屋小(H9)の補強工事を行ったため、資産が増加しています。

キーワード(用語解説)

有形固定資産

学校、福祉施設、道路などの施設整備に使われたお金の総額で、減価償却を行った数値です。土地については、取得金額で計上しています。

投資的資産

関係団体への出資金、福祉や国際交流など特定目的のために積み上げられた基金です。

流動的資産

現金や預金、財政調整基金などの現金化が容易な基金、市税などの未収金です。

負債

有形固定資産を形成するために、財源の一部として借り入れている地方債の残高や、市職員が普通退職した場合に必要な退職金などがここに含まれています。

正味資産

資産から負債を差し引いた残りの金額です。一般財源や国庫支出金、県支出金などが該当します。